第3回大会講演要旨 II

於国立公衆衛生院 1951 年 4 月 3・4 日

特別講演

我が國に於ける衛生動物の諸研究問題

Kobayashi, H.: Present research projects
of medical zoology in Japan.

小林 清 治 郎

私の話の内容は、自分が従来若干手にかけた問題に就てであつて、一汎の研究問題の意味ではない。範囲は節足動物と屋内居住のネズミ類に限つた。魚類、貝類にも関係せる事項が色々あるが、今日は之を省略する。

甲殻綱、橈脚目の淡水産の種類(所謂ケンミジンコ類)には條虫や線虫の中間宿主となつているものがある。之等寄生虫の予防上ケンミジンコの生活繁殖条件を知る事を要する。又鰓脚目(ミジンコ類)、介形目(カイミジンコ類)は吸虫類中間宿主たる淡水産巻貝の天敵となつてゐる。更に十脚目の淡水産カニ及びザリガニ類の習性は肺吸虫被胞幼虫の感染の難易に関係する。

蜘蛛綱のダニ目に就ては佐々、浅沼両氏の講演にゆづるが、我國産の種類発育には尙研究の余地が色々あるらしい。

昆虫綱、ゴキブリの分布、駆除の実際方法、動物寄生の虱の種類習性、人の虱の消長、床虱(ナンキンムシ)の日本間の分布、その生活の条件、蚤の一般分類、ネズミノミの分布、多少、ケオブスネズミノミの分布条件、人蚤の消長及び其の原因等皆研究の余地がある。

双翅目は最重要である。蚊科に就ては普通蚊の成虫及び幼虫習性、蚊の吸血性(種類による差異、人体に対する反應等)発生場所の種類によつて略々一定している理由(食物の差は重要でない)、アカイエカとネッタイエカの習性の差等には未だ知られてない点がある。ブユ、サシチョウバエ、ヌカガ類メマトイ等の発生地及び発育条件に不明な点が多い。ハナアブ類は成虫の種類は多数知られているが、幼虫殊に水棲のものの習性は多く不明である。アブの類の幼虫、発育の状況も知られてないのが多い。

蠅に就ては、日本のイエバエと歐洲のイエバエの習性

の差、ノイエバエ類の分類、発育、コイエバエの発育等研究の余地がある。クロバエ、キンバエの種類は成虫及幼虫共にその習性が若干異つてゐる。(例ヒロズキンバエとヒツジキンバエの幼虫の如く)シマバエ科の幼虫の習性、ハナバエ科の種類、ウシバエの寄生性幼虫の習性及び分布の原因にも不明な点がある。

腸蛆症はどんな場合に起るか、又一般蛆が周囲に及ぼす影響は興味ある問題である。

蠅寄生カビの存在はよく知られているが、その実地利用法は将来に残された問題である。

ネズミに就ては人家にゐるネズミの種類、多少、行動範囲、居住数は都市及田園に於て最も速に研究せられねばならぬ。

昆虫駆除薬、先づ基礎的研究としてクチクラの構造、肢端感覚器、之等の種類による差異、昆虫が種類によつて薬剤に感受性の差異ある原因等を更に探究せねばならぬ。日本のイエバエには DDT 抵抗性が既に出来てゐる。蚊等にもあるらしい。之が将来は如何。更に薬剤の実施上無駄が多らしい。改良を要する。

鼠駆除薬ではワルファリンを速に実施してみたい。

結語。以上は全く一端にすぎぬ。學術上、實際上重要な問題は多数ある。我國壯年、青年の研究家により近年開明された点が多いが、更に将来各位の御努力を期待します。
〔京都府立医科大学医動物学教室〕

コナダニ類の医学的意義特に人体内
ダニ症についてSasa, M. and Asanuma, Y.: Medical
importance of Tyroglyphid mites, with
special regards on human acariasis.

佐々 学 浅 沼 靖

粉ダニ類(Tyroglyphid mite, Acarid mite)というのは貯藏食品などに無数に発生する多くの種類の微小なダニ類であつてホコリダニ類(Tarsonemid mite)と共にこれ

らの食品害虫として重要であり、また農作物や園藝植物の害虫としても人生に深い意義をもつ。これらは大きさ 0.2~0.7 ミリにすぎず、色も目立たぬので、我々の家庭内にも著しく繁殖しているにも拘らず、殆ど一般人の関心をひかない。医学上にも色々な面で問題となっており、多くの未解決の領域を残している。これらを要約してみると次のような項目になる。

A. 食品などの害虫

貯蔵穀物——*Tyrophagus*, *Acarus*, *Tarsonemus*.

砂糖味噌——*Carpoglyphus*.

乳製品(粉ミルク, チーズ)——*Tyrophagus*.

乾燥魚肉(干物, 煮干, 鰯節)——ホシカダニ,

Glycyphagus, *Tyrophagus*

細菌培養基——*Tarsonemus*, *Tyrophagus*, *Anoetus*

B. 痒痒性湿疹

Pediculoides ventricosus, *Tyrophagus*, *Tyroglyphus*,

Glycyphagus. ? *Dermatophagoides schereemetewskyi*

C. アレルギー性疾患(気管支喘息など)

D. 人体内ダニ症

I. 消化系ダニ症(一部代表的なもの)

報告者	年代	報告者の判定	査定
大石	1893	<i>Sarcoptes intestinalis</i>	<i>Carpoglyphus</i>
芳賀	1893	喰腎血蟲	不明
原田	1909	<i>Glycyphagus domesticus</i>	<i>Carpoglyphus</i>
角田	1911	<i>Glycyphagus</i> sp.	同上
竜野	1909	ドメスティクス虫卵	ダニ=卵に非ず
北村	1915	<i>Tyroglyphidae</i> の 2 種	<i>Carpoglyphus</i> <i>Tyrophagus</i>
栗			
三田	1915	<i>Carpoglyphus</i> ?	
三浦	1926	<i>Glycyphagus</i>	<i>Carpoglyphus</i>
川井			
井田	1936	<i>Tyroglyphus</i> <i>Tarsonemus</i>	<i>Tyrophagus</i> <i>Tarsonemus</i>
橋本ら	1936	同上	同上

II. 泌尿系ダニ症 (一部代表的なもの)

報告者	年代	報告者の判定	査定
三宅	1893	<i>Nephrophagus sanguinarius</i> (喰腎血蟲)	<i>Tarsonemus</i>
Scriba			
斎藤	1912	喰腎血蟲の幼虫	<i>Tarsonemus</i> 雌

岸田	1921 1923	<i>Tetranychina tuberculata</i> <i>Tarsonemus sanguinarius</i> <i>Tarsonemus latissimus</i> <i>Tyroglyphus longior</i> <i>Tyroglyphus ovatus</i> var. <i>minor</i>
三宅 佐藤	1934	<i>Cnemidocoptes mutans</i> ? コナダニの Hypopus
橋本ら	1936	<i>Tyroglyphus Tyrophagus</i> <i>Tarsonemus Tarsonemus</i>
井尻	1936	喰腎血蟲 ホシカダニ?
南風原	1936	<i>Tyroglyphus forinae</i> <i>Tyrophagus</i>
藤井	1940	<i>Tarsonemidae Tarsonemus</i> <i>Tyroglyphidae Tyrophagus</i> <i>Dermatophagoides</i> etc.

III. 肺ダニ症

平山氏らの症例(1935)

終戦後の症例, 斎藤(1947), 田中ら(1948), 高橋ら(1949), 荻野(1950), 田中(1951)

IV. その他のダニ症

腹水——竹内(1948), 江尻ら(1949)

演者が, 人体内ダニ症より見出したダニ

ダニの種別	ダニの発見者							
	竹内	斎藤	田中	菅原	岩沢	手代木	田中	竹岡
ダニの種類	尿	腹水	痰	痰	尿	尿	尿	痰
<i>Dermatophagoides saitoi</i>			+	+	+	+		
<i>D. Takeuchi</i>	+							
<i>D. Scheremetewskyi</i>						+		
<i>Tyrophagus</i> sp.						+	+	+
<i>Glycyphagus</i> sp.	+							+
<i>Rhizoglyphus</i> sp.	+							
<i>Tarsonemus</i> spp.	+	+				+		
<i>Pyemotes</i> sp.	+	+						
その他	+					+		+

人体内ダニ症の考察

1. 人体排泄物に見出されたダニは外界よりの迷入ではないか

2. ダニは本来の寄生虫か, 偶発寄生か? その寄生経路は?

3. 人体内ダニ症は, どの程度実在するか

ダニの検査法ならびに標本作製法

封入液(ガム・クロラール液): アラビアゴム 8g に水 10cc を加え乳鉢でとかし, 抱水クロラール 50 g, 氷醋酸 1 cc, グリセリン 2 cc を加う。

食品ならびに人体内ダニ症に見出された主要種の分類上の位置

Acarina ダニ目

Sarcoptiformes
亜目 Acaridia

コナダニ類

Acaridae コナダニ科

Acarus
Tyrophagus
Rhizoglyphus
*Caloglyphus*Carpoglyphidae 科 *Carpoglyphus*Glycyphagidae 科 *Glycyphagus*Anoetidae 科 *Anoetus*Lardoglyphidae 科 *Hoshikadania*ヒゼンダニ類—Epidermoptidae 科 *Dermatophagoides*

Trombidiformes 亜目

Tarsonemini Heterostigmata (ホコリダニ類)

Tarsonemidae *Tarsonemus*(=*Nephropsophagus*)Pyemotidae *Pyemotes*(=*Pediculoides*)Prostigmata Tetranychidae ハダニ科 *Tetranychina*

〔傳染病研究所, 資源科学研究所〕

一般講演

青森地方の蚊族に関する二、三の新知見

Ishimura, K.: Contribution to the
mosquito fauna of Aomori.

石 村 清

ミスジシマカの幼虫及び蛹について

Kano, R., Sasa, M., Hayashi, S., Asanuma,
Y. and Nakagawa, H.: Description of
larvae and pupae of *Aedes galloisi*
Yamada, 1921.加納 六郎 佐々 学 林 滋生
浅沼 靖 中川 宏ミスジシマカ *Aedes (Stegomyia) galloisi* Yamada,
1921 は、日本に於て今までその幼虫が発見されなかつ
たが、ソ連において A. Montschadsky が 1936 年にミ
スジシマカの幼虫を図と共に記載している。著者等は 1950 年 7 月下旬に北海道札幌の円山公園の
空糞内から十数匹のヤブカ幼虫を採集し、之を個別飼育した。之等から羽化した蚊は大部分がヤマトヤブカ
Aedes (Finlaya) japonicus とヤマダシマカ *Aedes*
(*Stegomyia*) *fiavopictus* であったが、その中に三匹のミ
スジシマカ(雄のみ)があつた。此の幼虫は Montscha-
dsky の記載及び図とは多少異り、日本に於ては新記録
であるので、蛹と共にここに報告する。幼虫は中形淡褐
色乃至銀白色で光沢を有し、肉眼ではヤマダシマカ及び
ヒトスジシマカ幼虫と区別し難い。胸部及び腹部の剛毛
はヤマダシマカに極めて類似し、真直強剛で松葉状乃至
放射状をなす。ヤマダシマカとの相違点は前胸部腹毛が
3 分岐以下で呼吸管比は 2.0, 呼吸管毛は呼吸管の中央
より稍基部寄りに生ずる。ヤマダシマカでは前胸部腹毛
4 分岐以上, 呼吸管比 2.3 以上, 呼吸管毛は中央より先端
寄りに生ずる。ネツタイシマカとは側鱗両縁に微小な毛
の有ること(ネツタイシマカでは数個の棘), ヒトスジシ
マカとは五対毛の α 及び ϵ 毛が 6 分岐以上である点(ヒ
トスジシマカでは 4 分岐以下)で明かに区別出来る。蛹
は第 8 腹節突起, 頭頂板, 呼吸角等の構造により明かに
ヤブカ属であることを示し、さらに腹節第 3 毛の位置, 形
状, 游泳片, 小顎肢長等により *Stegomyia* 亜属の特徴を
備えている。尚ミスジシマカでは游泳片周縁毛の発達
が悪く、微小であることにより他種と区別出来る。即ち游
泳片周縁毛÷游泳片主毛で表現すれば、約 $1/4.5$ で、これ
はヤマダシマカとヒトスジシマカが約 $1/2$ を示すのとは